



小学校 英語活動ニュース

『市民ふれあいの里 英語キャンプ』を終えて



8月9日、10日と「市民ふれあいの里」において、児童31人が集まった英語キャンプを開催しました。キャンプには、大阪狭山市内に住んでおられる Matthew Gardner さん、Jason Fargason さんとその家族の Julie さんと Leon 君の参加を得て、英語を使いながらいろいろな遊びをして、楽しみました。

今年のメインは、finger painting で長いロール紙2枚にボディペインティング用のインクでもって自由に絵を描くことでした。Jason さんの指導で、まずは青色と黄色のインクで緑色を作ったり、黄色と赤色でオレンジ色を作ったりと絵具の調合の楽しさを学びました。その後、自由に絵具とパレットを持って描きはじめると、どの子ども、いろいろな色を組み合わせながら、夢中になって描いていました。集合写真は、そのうちの一枚を持って写したものです。



直山 木綿子（文部科学省）調査官が公開授業と講演

現在、文部科学省の外国語活動をリードして、全国の学校で講演や授業を行っている直山木綿子先生が、大阪狭山市立第3小学校に来られ、5年生の児童に授業をし、その後、「Hi, friends!」の作成した思いを話されました。



授業は、直山先生が持ってこられた name card を一人一人の児童に渡されることから始まりました。この活動に時間がかかりすぎではないかと思っていると、一人一人の子ども名前を呼び、声掛けを工夫しながらカードを渡し、児童を観察しておられました。

その後、「Hi, friends 1, 2」を通して何を狙っているのか、『桃太郎』の教材は原作とは異なるが、何が目的なのかをお話いただき、小学校英語活動の目標としているところを分かりやすく話していただきました。

この講演会の内容とよく似た記事が「小学校初等教育 5月号（420円）」に「特集 外国語活動の充実に向けた取り組み」において詳しく述べられています。

「大阪狭山市 小学校外国語活動授業づくり」第2回 研修会への参加

大阪府教育センター指導主事 小野扶美彦先生をお迎えしての市教委主催の研修会へ、「大阪狭山小学校英語活動支援の会」も参加してまいりました。

まず、前回ワークショップした「子どもにとって『いい外国語活動』とは」という命題のもと話し合ったことについて、どのような意見があったかを総括して提示されました。

「聞きたい」「話したい」「知りたい」「やりたい」・・・「その気にさせる」

↓ 機会の保障・人と接するマナー

「できた」「通じた」・・・充実感・達成感

↓ 「ほめられた」

「もっと・・・」・・・意欲

その後、他市の英語活動のビデオを見せていただき、担任の先生は？支援の会は？なんて、私たちならどうするかを考えながらみせていただきました。

次に、文部科学省の行った『英語活動実施状況調査』を基にお話しされましたが、特に小中連携をどのようにするのか、つまり中学校英語が小学校の外国語活動を理解しながらどのように引き継ぎ、「外国語を話せるようになりたい（91%）」、「使ってほしいことは外国旅行（88%）」という子どもたちの夢を実現させていけるかが、課題であると話されました。

また、他市では「外部人材の協力」を課題とするところが81%もある中で、大阪狭山市では、実に連携がうまく進んでいると感じました。私たちの課題は、他市と同様に「打ち合わせの時間の確保」です。2学期には、協力・連携しながら「Hi, friends」を基にした各クラスの楽しい英語活動づくりを支援して行きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

編集後記 夏休みの終わりに近づいた研修会で、先生方と支援の会のメンバーとが、共に明るい表情で、どのように Lesson Plan を立てるかを話し合っている状況を目の当たりにして、支援の会が発足して3年という時間が、大切な芽を育ててきたことを実感しました。その芽を枯れさせず豊かな実をつける花を咲かさなければなりません。

連携とは「同じ目的を持った同士が連絡を取り合いながら、同じ物事に取り組むこと」とありました。（石井重光）